

組織

会長	菊地 篤	(雄和小中)			
副会長	三浦 直樹	(下浜中)	築地 洋		(中通小)
	黒澤 淳	(八橋小)			
事務局	渡部 英明	(勝平小)	中尾 裕子		(山王中)
	小泉 水季	(旭川小)			
幹事	小林 さおり	(将軍野中)	三浦 茉莉		(川尻小)
会計	佐藤 廣子	(勝平中)	櫻田 麻莉恵		(外旭川中)

主な事業

大森山動物園
第45回親と子のふれあい写生大
(大森山動物園と共催：審査日8月19日)

全市一斉授業研究会 (中学校)
授業日 (土崎中)、協議会 (雄和中)
10月5日 (水) 10月26日 (水)

秋田県児童生徒美術展秋田市審査
審査会場 (秋田南中学校)
審査日12月3日

クローキョー巡回展：市内各小学校12月～2月
(審査1月16日～19日、展示2月中旬
に入賞作品スライドショー公開予定)

親と子のふれあい写生大会

今年も昨年度と同様に、昨年度と同じような方法で実施することとなった。立体の部は中止し、原則園内での制作をせず、自宅での制作とした。園内での簡単なスケッチや写真・動画撮影は可とし、それらや園の公式 SNS などをもとに制作してもらうことにした。集まった作品は昨年よりは少し増え、約375点の応募があった。8月19日(金)に秋田市造形教育研究会の担当が審査した。作品制作のテーマである「動物との語り」を踏まえて子どもの思いが伝わる作品を尊重し、時には裏面にある題名を手がかりとしながら、子どもが対象とする動物へどんな思いを抱いているのか、どんな様子を表したかったのかを考えながら審査した。各学年総じて、どんな様子を表したいか、そのために効果的な表現方法は何かを考えながら描いたことが伝わる作品が受賞したと言える。今年度も、作品を見る目を養う有意義な研修の場となった。来年度こそ、動物たちと対話しながらの写生会が行われることを願っている。



【審査の様子】

研究会の記録

全市一斉授業研究会 (中学校) 授業10/5 (水) 土崎中学校富田文絵先生
協議会10/27 (水) 雄和中学校

題材名「じーっと見てみてね。～アートカードで美術に触れよう」(2年生)

アートカードを活用して様々な美術作品に触れ、形や色。構成、表現効果、作者の思い等、個々が感じ取ったものをもとに意見交換することで、美術作品のよさや美しさを鑑賞する豊かな感性を育てることをねらった授業であった。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から授業参観ではなく、授業の動画を会員が視聴しそれをもとに協議会を別日に開催するという形式で行われた。協議会では、「新学習指導要領を踏まえて、育てたい力を明確にした題材の工夫と支援の在り方」という協議題のもと活発な意見交換が行われた。ただ、実際の授業ではなく動画視聴をもとにした話し合いということで、子どもたちの個々のグループの様子や授業の雰囲気等が分からない部分も多かった点が今後の課題と思われる。

